

キメラ抗原受容体導入発現 γ δ T細胞による悪性中皮腫に対する免疫治療法の開発 患者さんの検体の研究利用についてのお知らせ

本研究の目的

本研究は、東京大学医学部附属病院免疫細胞治療学講座と呼吸器外科を中心に実施する研究です。目的は、悪性中皮腫というがんに対する新しいがん免疫細胞治療を開発することを目的としています。血液中の γ δ T細胞というリンパ球に、中皮腫細胞の表面に存在するメソテリンという物質に対する受容体を導入して、遺伝子工学的に中皮腫細胞を認識して破壊することができるキラー細胞を作成します。この人工的に作製した細胞を用いた新しいがん治療法を研究し、将来的に実用化を目指しています。

本研究の概要

本研究実施に際し、既に東大病院で γ δ T細胞を用いたがん免疫治療の臨床試験に参加された患者さんの検体（リンパ球、血漿）で、臨床試験終了後の余剰分で凍結保存されている検体を用いて、 γ δ T細胞を培養して研究に用います。

対象となる臨床試験は下記の5つです。

1. ゲムシタビン（GEM）化学療法と免疫細胞（活性化自己 γ δ T細胞）治療の併用による膀胱癌術後補助療法の安全性および有効性の評価
2. 免疫細胞（活性化自己 γ δ T細胞）治療を用いた肝内胆管癌・胆道癌に対する術後補助療法の有効性および安全性の評価
3. 食道癌に対する活性化自己 γ δ T細胞治療の有効性および安全性に関する研究
4. 腹水貯留胃癌に対する γ δ T細胞治療
5. 食道癌に対する5-FU、シスプラチン、ドセタキセル3剤併用（DCF）治療と活性化自己 γ δ T細胞治療の併用に関する研究（DCF γ 治療 第I相試験）

対象とする期間 2007年6月25日から2013年2月28日まで

プライバシーの保護に関して

研究において利用させていただく検体は、既にごがん免疫治療の臨床研究実施時に採取され、保管されているものの残りを用いるので、患者の皆様への身体的負担はありません。患者の皆様個人を直接特定できない匿名化情報として収集した上で、厳格に保護します。

この研究課題の全ては、東京大学大学院医学系研究科・医学部 倫理委員会における審査を受け承認を得られたものです。もしこの研究についてのご質問がおありの場合は、研究責任者までいつでもご質問ください。又、御自身、御家族の検体を本研究に利用することについて、ご了承いただけない場合には、以下の研究責任者にご連絡ください。なおその場合においても、皆様の診療において不利益が生じることは全くございませんのでご安心ください。

平成 25 年 4 月 16 日

研究責任者

東京大学医学部附属病院 免疫細胞治療学

特任准教授 垣見和宏

連絡先：03-5805-3163（直通）